

筑波大学審査学位論文（博士）

論文題目：「パフォーマンスとしての交換」に基づく学習コミュニティの記述と介入
—社会的排除への対応としての福祉コミュニティの形成—

人間総合科学研究科 心理学専攻

氏名 北本遼太

論文要旨

本論は、グローバル化によって生じた社会的排除への対応としての「福祉コミュニティ」の形成過程についての検討を通して、学習理論の1つである状況論に対して新たな分析単位の提案を目指すものである。本論で依拠する状況論とは、社会的・歴史的变化に応じた、様々な人、道具、知識、制度が関わるコミュニティの共同形成過程としての学習に着目する理論であり、本論は社会的・歴史的に生じた福祉に関わる課題状況を再編成する営みとしての学習コミュニティに着目するものである。1980年代以降の最も大きな社会的・歴史的变化として、情報・人・モノ・金の国境を越えた流通量・速度の増加であるグローバル化がある。このグローバル化に起因した社会的排除と包摂は現代の重要な課題であり、その対応として、社会的弱者をコミュニティの中心に位置づける「福祉コミュニティ」が注目されている。グローバル化という社会-経済状況の歴史の変遷とともに生じた社会的排除という課題を福祉コミュニティの形成によっていかに解決するのかは、人間が行なうアクチュアルな課題解決学習であり状況論の重要なテーマであるといえる。この社会的排除に関する状況論の先行研究では、既存の制度的枠組みを超えた専門家間の連携を可能にする即興的なコミュニティ形成の知的側面に注目した研究が行なわれてきた。また、近年の状況論の展開の1つであるパフォーマンス心理学では即興性と情動の関係が指摘されている。つまり、即興的なコミュニティ形成の知的側面に加え、情動的な側面も検討する必要があると考えられる。このための分析観点として、本論では「パフォーマンスとしての交換」を提案し、状況論の理論的進展を目指す。具体的な作業としては、営利企業及び非営利法人として展開する福祉コミュニティの関係者への調査とフィールドへの介入を「パフォーマンスとしての交換」の観点から行ない、社会的排除への対応としての福祉コミュニティの形成過程（すなわち学習）について明らかにする。

以上の目的の達成のために、本論では以下の8つの研究を行なった。

まず、研究1として、パフォーマンス心理学の創始者の1人であるフレド・ニューマンの著作から抽出したギブとゲットに関する記述をデータとして、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTA）を援用して整理を行なった。M-GTAによる分析で得られたカテゴリをもとに、ニューマンのギブとゲットの議論の特徴をまとめた。これらの特徴に基づいて「パフォーマンスとしての交換」を「様々な人、道具、知識、制度が関わるコミュニティ形成過程を、支配的ギブ-ゲットパターンの特徴及び、その転換としての感情や振る舞い方の変化に注目して記述する」分析観点として定式化した。

第二部では、障がい者、高齢者、就労に苦戦する若者などの社会的弱者を地域社会や企業に包摂する活動に焦点をあて、福祉コミュニティの形成過程の経験的な研究を行なう。第三章では、社会的弱者との間でサービスの利用契約を結び福祉事業を実施する3つの非営利法人を対象に調査を行なった。それらの法人の設立と展開に様々な形で関わった人々にインタビュー調査を行ない、コミュニティ形成過程を多角的な視点から記述した。具体的には、法人の事業開始当初から関わっているメンバー（研究2）、法人設立の協力者（研究3）、法

人から離れた設立メンバー（研究4）に半構造化面接を行ない、各研究のデータセットごとに M-GTA を援用した分析を行ない、各関係者から見たコミュニティ形成過程についてのストーリーラインを作成した。それぞれ、新聞記事で見ただけの存在をはじめとする法人の事業に直接的な利害関係を持たない存在が事業の制約と突破をもたらす過程（研究2）、協力者が社会という第三者を視野に入れることで法人への協力を社会貢献という意味を見出し、十分な金銭的報酬が払えない立ち上げ初期の法人への協力が行なわれた過程（研究3）、金銭報酬の発生に伴う関係性の固定化と重責感の転換として、法人から距離をとりながら元メンバーの現状に合った形で新たな関係性を取り結ぶ過程（研究4）を記述した。そして、第三章のまとめとして、パフォーマンスとしての交換から、それらのストーリーラインを再解釈し、非営利法人のコミュニティ形成の多角的記述を行なった。この作業を通して、供与可能なもの（サービス・金銭・労働力）とそれに応じた対価を釣り合わせる作業である均衡化のワークを特徴としたサービス提供-報酬獲得のパターンが非営利法人の福祉コミュニティにおける支配的ギブ-ゲットパターンであること及び、そのパターン転換過程として、法人の活動に直接的な利害関係を持たない距離的懸隔を持った存在からの/へのギブをもとに経営的・情動的な基盤を拡充する過程を見出した。

第四章では、理論的サンプリングとして、第三章でとりあげた非営利法人に対して社会的弱者の雇用と教育を重視する営利企業に調査対象を広げた。研究5では調査対象となった営利企業の設立者及び運営メンバーに、研究6では雇用されている社会的弱者に対して、それぞれ半構造化面接を行ない、各研究のデータセットごとにストーリーラインを作成した。それぞれ、独特な逸脱を持つ若者に支援として教育を施すもそれが十分に伝わらないやりきれなさからキメラ的言説を創出する過程（研究5）及び、法人Dの教育活動から離れることで生じる損失の蓋然性を想像しながら継続して法人Dの教育活動に参加する過程（研究6）を記述した。そして第四章のまとめとして、パフォーマンスとしての交換の観点からのストーリーラインの再解釈を行なった。この作業を通して、若者たちに足りない経験や考え方、環境を補充すれば若者たちが変わるという支援観である欠如-補充モデルを特徴とした教示-非獲得のパターンが営利企業の福祉コミュニティにおける支配的ギブ-ゲットパターンであること及び、そのパターン転換過程として教育対象の若者たちへの教育としてギブを続けるための法人理念や活動指針を表す言説基盤の創出過程と教育対象の若者たち自身が業務を通してコミュニティに対して自らの経歴や趣味と密接に結びついたものを差し出す実践を見出した。

以上の第二部の経験的研究を通して、社会的排除への対応としての福祉コミュニティの形成過程の記述にあたって、責任の質的に多様な在り方への注目が重要であることが示唆された。そして、既存の制度とは異なる新たな支援活動の組織と維持という知的営みは、発奮や、やりきれなさ、重圧感など様々な感情をもとに駆動されており、責任の質的に多様な在り方は、即興的なコミュニティ形成の知的・情動的側面を記述するうえで有用な注目点だと考えられる。

第三部では、第三章及び第四章で得られた結果をもとに介入方針を立て介入研究を行なった。これにより、パフォーマンスとしての交換が持つ記述の枠組みとしての意義だけでなく、実際の福祉コミュニティの形成に資する指針としての意義について検討した。具体的には、第三章の調査対象となった法人 C の支援プログラムの一環として、利用者が何かしらの貢献を差し出すことを可能にする活動（以下、仕事作り活動）を組織し、その活動を通じた法人 C の利用者、職員及び事業の変化を記述した。研究 7 では、活動に 1 度は参加したものの途中で離れた利用者及び利用者の普段の様子を知る職員へ調査を行なった。M-GTA を援用した分析の結果、仕事作り活動への参加がもたらす困難が、利用者たちが仕事作り活動に対して感じた実働にかかる重荷やコストとしての責任を忌避する過程であることを明らかにした。また、利用者たちは離脱した後も仕事作り活動に対して気まずさを感じており、仕事作り活動に対して果たせなかった責任が形を変えて層的に積み重なる過程を明らかにした。研究 8 では、この仕事作り活動の参加への困難の突破の可能性を検討するために、仕事作り活動として地域イベントの企画・運営に関わった利用者及び職員に調査を行なった。分析の結果、仕事作り活動の実働にかかり生じたコストや重荷と類似した『やらなきゃいけない責任』だけでなく『進んで自分を身を投げる責任』を参加者が実感するように、イベント実施を通して責任の多義化が生じることが明らかとなった。また、この責任の多義化は、仕事作り活動が趣味であるとともに仕事でもあるという多義的なコミュニティ形成を伴っていることが明らかとなった。

以上の介入及び分析作業を通じて、就労支援プログラムとしての仕事作り活動の意義が差し出し先のコミュニティの共同創出であることを指摘した。さらに言えば、この差し出し先のコミュニティの創出は、法人 C の将来的な事業構想及びその担い手となる人材の発見という形で法人 C の支援活動の充実化に資するものであった。つまり、利用者の差し出しを可能にする活動作りという指針は、具体的な構想及び人材の創出によりコミュニティの可能性を拓くことに寄与すると考えられる。

以上の分析単位の提案と具体的な調査・介入を通して、現代の社会・経済的変遷に応じた状況論の進展の具体的な方向性として、社会的排除という現代的な課題に対応するためのコミュニティ形成過程（すなわち学習）において、コミュニティにおける質的に多様な責任の在り方への注目が重要であることを指摘した。また、福祉コミュニティのより良い在り方に関する示唆として、本論の知見から、福祉コミュニティに関する先行研究で指摘された関心の共有による連帯という見方ではなく、言説と感情の即興的な創出に伴うコミュニティ形成というコミュニティ観を提案した。